令和３年４月作成

泉区役所総務課防災担当

泉区地域防災拠点訓練実施要領

はじめに

平成23年３月11日に発生した東日本大震災では、横浜市でも震度５強を観測し、多くの地域防災拠点を開設しました。

地震の発生による地域防災拠点の開設は、平成７年の地域防災拠点の設置及び各運営委員会の発足以降初めてのことであり、この地震では、地域防災拠点の開設準備、避難者の受入れ、管理において多くの課題が残りました。

大規模地震が発生時の混乱を最小限にとどめ、円滑に地域防災拠点の開設を行うためには、開設までの流れを具体的にイメージし、運営委員会のだれが参集しても対応できるよう、日ごろから訓練を実施していくことが重要となります。

この要領は、拠点の開設準備・避難者の受入れに焦点を当てた訓練を実施し、実施結果を基に、各地域防災拠点においてマニュアル整備につなげることができるよう作成したものです。

　各地域防災拠点運営委員会の実情に応じて、訓練実施の参考として御活用いただきますようお願いいたします。

【参考】地域防災拠点開設簡易フロー（運営委員集合～避難者受け入れまで）

備蓄庫前に集合

点検用資機材の準備

救助資機材の準備

施設の点検

点検結果　→　開設可

点検結果　→　開設不可

区本部に結果を報告し指示を仰ぐ

避難者受け入れ準備開始

【実施項目】

①受付設置（場所：●●）

②体育館、発熱等配慮が必要な避難者専用スペースへの資機材搬送（毛布等）

③トイレ対策　（表示）断水等の状況に応じた対応を実施

④立入禁止場所の表示（場所：●●、●●）

⑤仮救護所の設置（場所：●●）

準備完了

各所（受付、体育館等）に人員配置

区本部に拠点開設報告（電話、無線機等）

避難者受入開始

**◆ＳＴＥＰ３**

**開設・運営**

**（避難者受入）**

**◆ＳＴＥＰ２**

**開設準備２**

**（具体的な対応）**

**◆ＳＴＥＰ１**

**開設準備１**

**（施設の点検）**

**■訓練実施要領**

**◆ＳＴＥＰ１（開設準備１）**

|  |
| --- |
| 【ＳＴＥＰ１　解説】  ・地域防災拠点を開設し避難者を受け入れる前に、必ず施設の被害状況を確認しましょう。  ・施設を確認した結果、壁面等のひび、窓ガラスが割れている、断水しているなど、軽微な被害を確認した場合は、応急処置等を行うまでの間、避難者を一時的にグランド等に待たせておくことも必要になります。  なお、体育館の天井が崩落している等、避難所として避難者を受け入れることが困難な場合は、拠点開設不能と判断し、区災害対策本部（泉区役所）に連絡をし、指示を仰いでください。他の拠点の状況を確認して、そちらに避難者を誘導します。  ・点検中に被災する可能性もあるので必ず２人以上１組で点検を実施します。  ・人手が不足する場合は、既に避難している方々に協力を要請します。 |

**【訓練１】　施設の点検、救助資機材の準備**★**必ず実施**

|  |  |
| --- | --- |
| ●実施場所　： | 避難所として使用する箇所 |
| ●実施内容　： | 避難者（訓練参加者）を受け入れる前に、学校施設の被害状況等を「地域防災拠点確認票１・２」に基づいて確認し、地域防災拠点（避難所）として開設可否の判断する訓練です。  また、地域内に倒壊した家屋が発生したことを想定し、救助に必要な資機材を準備する流れを確認します。 |

＜やり方＞

①　訓練開始時間に**防災備蓄庫前**に集合します。

②　集合したら防災備蓄庫から以下の資機材を取り出します。

・点検用資機材の準備

|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □ヘルメット  □ライト  □地域防災拠点確認票１・２　様式第２号、第３号  □バインダー、筆記用具　など |

・救助資機材の準備

|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □ヘルメット　□手袋・軍手　□バール　□ジャッキ  □エンジンカッター　□担架　□ライト　□リヤカー　など |

※防災備蓄庫周辺に並べて救助が必要となった場合に備え、持ち出せるようにする。

③　ヘルメットを被り２人１組で被害状況確認の点検を実施します。

|  |  |
| --- | --- |
| 【確認箇所】 | 学校周辺、体育館、トイレ（校舎●階）、教室（●●室）など |

※点検箇所の詳細は別紙●●学校地域防災拠点開設準備　被害確認場所を参照

※確認する項目は地域防災拠点確認票１（外観）様式第２号、地域防災拠点確認票１（内部）様式第３号のとおり

④点検が終了したら**委員長（もしくは担当者：●●）**に結果を報告します。

**◆ＳＴＥＰ２（開設準備２）**

|  |
| --- |
| 【ＳＴＥＰ２　解説】  ・施設点検の結果、施設に大きな被害がなければ拠点開設可能と判断して、避難者を受け入れるための準備を行います。  ・受付や使用する教室などの場所は平時より運営委員会で決めて、マニュアルや図面などに記録してください。  ・実災害では運営委員の手が足りないことも想定されます。その場合は避難者に協力を得ながら設置を行います。  ・実際に準備を行うことで足りない部分を確認することができます。 |

**【訓練２】避難者の受け入れ準備**★**必ず実施**

|  |  |
| --- | --- |
| ●実施場所　： | 避難所として使用する箇所（体育館・教室など） |
| ●実施内容　： | 訓練１で行った施設の点検の結果により、施設の大きな被害がなかったため拠点開設可能と判断されました。避難者を受け入れるために必要な準備を行う訓練です。 |

１　受付設置訓練　★**必ず実施**

実施（設置）場所　：　**●●**

＜やり方＞

①　受付に必要な資機材を準備します。

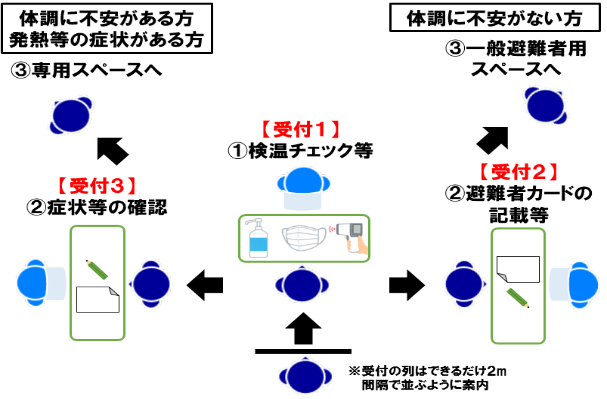
|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □机×３  □筆記用具  □避難者カード  □感染症防止対策備品＜青色コンテナＢＯＸ＞（体温計、アルコール消毒液、問診票）　など |

②　感染防止対策を考慮したレイアウトで受付を設置します。

【受付１】…体温測定・簡単な問診を行い、症状に応じて受付２、３に振り分ける。

【受付２】…受付１で気になる症状（発熱・感染症等）がないと判断された一般の避難者の受付を行う。（避難者カードを記載し、体育館へ案内）

【受付３】…受付１で発熱が確認された、または、問診によりなにかしらの気になる症状があると思われる避難者の受付を行う。

受付３で更に詳しい症状を聞き取り、一般の避難者とは別の専用スペースに案内する。

地域防災拠点避難者受付レイアウト例

２　避難スペース区割り訓練　★**必ず実施**

　　　実施場所　：　一般避難者　→　体育館

発熱等の有症者　→　**●●**

　　　　　　　　　　配慮が必要な避難者　→　**●●**

＜やり方＞

① 体育館、発熱等配慮が必要な避難者専用スペース等への資機材を搬送します。

|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □レジャーシート  □毛布  □ランタン  □アルコール消毒液  □間仕切パーテーション　など |

②　間隔（避難者世帯同士の間隔１ｍ以上）を考慮した区割りをレジャーシートやテープなどを活用して表示します。

③　出入口付近にアルコール消毒液を設置します。

④　夜間等を想定する場合、ランタンを避難スペースに適宜配置します。

また、避難者が希望する場合に毛布を配布できるよう準備します。

３　断水時のトイレ対策訓練　★**必ず実施**

実施場所　：　●●のトイレ付近

|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □バケツ  □トイレパック  **※訓練用のトイレパックは事前に区役所からもらうこと（備蓄品の使用不可）。**  □簡易式トイレ便座　　など |

※断水を想定したトイレ対策を実施

**●　既存トイレ ＋ 水バケツ**

＜やり方＞

① 洗面台付近に水を入れたバケツを４～５個準備します。

②　バケツの水を便器に一気に流し込み、排水の様子を確認（体験）します。

**●　既存トイレ（簡易便座） ＋ トイレパック**

＜やり方＞

① 簡易便座にトイレパック用の袋を取り付けます。

②　袋にペットボトルなどを使用して水を入れます。

③　続いて袋の中に凝固剤を入れます。

④　水が固まる様子を確認（体験）します。

４　活用する教室及び立入禁止場所等の表示訓練　☆できれば実施

実施場所　：　●●

※地域防災拠点を開設した際に活用する教室や、避難者の立ち入りを制限する場所を事前に学校に確認しておきましょう。

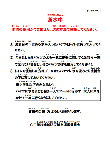
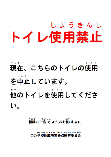
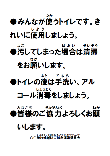
|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □男女のニーズの違いに配意した開設運営スターターキット  □立入禁止テープ  □トイレ使用方法・注意書き　　など  ※無い場合は貼り紙等で表示を行う |

＜やり方＞

① 「授乳室」「更衣室」等に活用する教室の入口などに表示をします。

②　災害時のトイレの状況（断水・下水管破損・トイレ使用不能等）に合わせた利用法方法を表示します（『断水中、水バケツを使用してください』や『水洗不可、トイレパックを使用してください』等）。

③　立入を制限するエリアに通じる廊下などに立入禁止テープや貼り紙を設置します。









※訓練参加者は表示された場所を確認（見学）することで、避難所開設時の取組への理解を深めます。

５　仮救護所設置訓練　☆できれば実施

設置場所　：　●●

※負傷者の応急手当を行う場所（仮救護所）を決めておきましょう。

|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □ブルーシート  □救急箱  □アルミブランケット　など |

＜やり方＞

①　仮救護所設置場所（教室・グランドなど）にブルーシートを広げます。

②　応急手当等に必要な備蓄品（救急箱・アルミブランケットなど）を配置します。

※実際に負傷者対応する際は、感染防止対策（マスク、フェイスシールド、手袋等）行って実施します。

**◆ＳＴＥＰ３（開設・運営）**

|  |
| --- |
| 【ＳＴＥＰ３　解説】  ・避難者を受け入れるための準備が概ね完了したら避難者の受け入れを開始します。  ・避難生活が始まると細かいルールが必要となります。事前に皆さんで話し合っておくことで、安定した拠点運営ができるものとなります。 |

**【訓練３】避難者の受け入れ・避難所運営　（※訓練参加者含めて実施）**

|  |  |
| --- | --- |
| ●実施場所　： | 避難所として使用する箇所（体育館・教室など） |
| ●実施内容　： | 訓練２を実施した状態（拠点開設準備完了）で、地域の訓練参加者を避難者と想定し、拠点運営訓練を行います。  ※訓練参加者が多い場合は、班分けをしてそれぞれの箇所を順に回るようにします。 |

１　避難者受付訓練　★**必ず実施**

　　実施場所 ： 受付

実施内容 ： 参加者を避難者と想定した避難者受付要領の確認

※非接触型体温計や問診票を活用し、症状ごとの避難者をそれぞれの避難スペースに案内するまでの一連の流れの確認

＜やり方＞

①　**【受付１】**にて避難者を非接触型体温計で検温し、問診票で風邪等の症状の有無を確認します。

|  |
| --- |
| （例）運営『検温を行います。』→検温  問診票を見せながら、  運営『四角の中の質問に当てはまるものはありますか？あれば、どれに該当するか指をさしてください。』 |

・発熱がない場合　→　**【受付２】**へ

・発熱がある、または、問診内容に該当する場合　→　**【受付３】**へ

②　発熱がなく、あてはまるものがない場合は、体調に不安がない方用の受付**【受付２】**に案内します。**【受付２】**で避難者カードの記入を行い、一般避難者用スペース（体育館）へ案内します。

③　37.5度以上の熱がある、または、問診であてはまるものが一つ以上ある場合は、体調に不安がある方、発熱等の症状がある方用の受付**【受付３】**に案内します。**【受付３】**で詳細な症状の確認を行った後、避難者カードの記入を行い、専用の避難スペース（●●）に案内します。

|  |  |
| --- | --- |
| 【用意するもの】 | □筆記用具  □避難者カード  □感染症防止対策備品＜青色コンテナＢＯＸ＞（体温計、アルコール消毒液、問診票）　など |

|  |
| --- |
| 【受付　ワンポイント】  ・有症状者と一般避難者を同じスペースに避難させてしまうと感染症が拡大する恐れがあります。有症状者と一般避難者を、それぞれ用意した避難場所（体育館、教室等）に案内できるよう留意しましょう。  ※受付の設置場所が分かりにくいと、受付を通らずに避難所内（体育館）に入ってしまうことが考えられます。避難者の動線等を考慮した場所に受付を設置しましょう。 |

２　避難生活体験　☆できれば実施

実施場所 ： 体育館、●●

実施内容 ： 避難生活を行う場所（体育館など）の見学

※参加者はそれぞれの場所や対策を見学することで、１世帯あたりが使用できるスペースや断水時のトイレ使用方法など、体験（見学）することで避難生活をイメージします。

＜やり方＞

①　**ＳＴＥＰ２（開設準備２）【訓練２】避難者の受け入れ準備**で実施した「避難スペー　ス区割り」「断水時のトイレ対策」「立入禁止場所の表示」などを実施した場所に説明者を配置します。

②　地域防災拠点開設時の状況を訓練参加者は見学します。

　　※トイレ対策は、デモンストレーション（バケツの水でトイレを流す・トイレパックの実験など）を行いながら災害時のトイレ使用方法などを参加者に説明する（状況に応じて参加者が体験するでもよい）。

３　仮設トイレ設置訓練　☆できれば実施

実施場所 ： ハマッコトイレ設置場所

実施内容 ： ハマッコトイレ等の組立て、下水道管への注水訓練

＜やり方＞

●　参加者と合同で実施する場合

①　防災備蓄庫からハマッコトイレ一式(１～２個)を取り出します。（事前準備で省略可）

②　トイレ上屋、便器等を組み立てます。

③　プールに送水ポンプを設置し、下水道管内に水を溜めます。

④　貯留弁を操作し、下水道管内の水を排水します。

●　参加者は見学のみの場合

①　防災備蓄庫からハマッコトイレ一式(１～２個)を取り出します。＜運営側で事前準備＞

②　トイレ上屋、便器等を組み立てます。＜運営側で事前準備＞

③　プールに送水ポンプを設置し、下水道管内に水を溜めます。＜運営側で事前準備＞

～ここから参加者見学～

④　設置されたハマッコトイレを見学します。　＜運営側で仕組み説明＞

※貯留弁を操作し、下水道管内の水を排水する様子を見学します。

４　資機材取扱訓練　☆できれば実施

|  |  |
| --- | --- |
| 実施場所　： | ●● |
| 実施内容　： | 特設公衆電話機、発電機、エンジンカッター、移動式炊飯器・ガスかまどセット等の資機材の取扱訓練を実施 |

※各資機材の指導は「防災ライセンスリーダー」に必要に応じて依頼してください。

＜やり方＞

①　それぞれの資機材の説明者を配置します。

②　参加者はそれぞれの資機材の取扱いを体験します。

５　物資配布訓練　☆できれば実施

|  |  |
| --- | --- |
| 実施場所　： | ●● |
| 実施内容　： | 避難者や、在宅避難者に救援物資等を配布する要領の確認 |

＜やり方＞

①　救援物資等の配付場所に長机等を設置します。

②　参加者の導線をテープや貼り紙で表示します（一方通行になるよう）。

③　有効期限間近の備蓄食などを救援物資と想定し、参加者に配布します（列に並ぶ参加者の間隔に配慮します）。

６　災害用地下給水タンク等を活用した応急給水訓練　☆できれば実施（設置拠点のみ）

|  |  |
| --- | --- |
| 実施場所　： | 災害用地下給水タンク・受水槽設置場所 |
| 実施内容　： | 断水時の飲料水確保要領についての確認 |

＜災害用地下給水タンク　やり方＞

①（事前準備）

水道局三ツ境水道事務所に「応急給水訓練依頼書」にて訓練立会を依頼します。

（TEL：３６３－１５４１　FAX：３６３－２６３０）

②　訓練当日、水道局職員指導の下、応急給水装置を組み立てます。

③　給水要領を確認します。

＜簡易給水栓（受水槽）　やり方＞

①　受水槽に簡易給水栓を取り付けます。

②　給水要領を確認します。

７　夜間等を想定した照明等設置訓練

|  |  |
| --- | --- |
| 実施場所　： | 体育館・教室等 |
| 実施内容　： | 停電時の照明確保要領等についての確認 |

＜やり方＞

①　カーテン等で暗くできる場所に投光器（発電機）・ランタン等を必要な数を準備します。

②　照明器具による明るさを体験します。